

漬水は重曹3~4%，重曹2%+炭酸ソーダ0.2%次に炭酸ソーダ1%が有効であつたが醋酸0.2~1%溶液に浸漬処理した場合が更に勝れた結果が得られたのでこの方法をすすめ度い。

(3) 浸漬後に熱食塩水中で処理する場合 90°C前後では2分程度、沸騰しているとき60~70秒が適当であり、引上げて直に乾燥した布等を用いて手早く剥離することが肝要である。

(4) 本処理法で表皮の剥離を行う場合大量を全時に処理するには若干の無理があるが小量宛の断続作業としては有効な方法と云える。

4.2.7. [題目] 味噌の防湧防黴試験(第1報)

リヒトワキコンの効果について

東 邦 雄

(目的)

味噌を夏季に貯蔵中特に最近ポリエチレン袋に入れて出荷する場合、袋内で発酵を起し膨脹する

為に商品価値が低下し大きな障害となつてゐる。製品味噌の安定性を保持する方法としては現在加熱殺菌が普通に行はれ⁽¹⁾、保存剤としてはデハイドロ酢酸ソーダ(以下DHA-Sと記す)とプロピレンゲリコール(以下PPGと記す)の併用効果等について報告⁽²⁾⁽³⁾があるが、今回はリヒトワキコン⁽⁴⁾の麦味噌に対する防湧防黴効果についての依頼があり、DHA-S、やPPGとの比較試験を行つたので報告する。

(概要)

I. 無加熱の場合

A 試 料

本場製強化味噌(S)と鹿児島市横山工場製(Y)を用いたが何れも淡色の麦味噌で本場の仕込み配合は、丸麦123kg、丸大豆45kg、脱脂大豆35kg、食塩45.8kg、仕込37年2月8日であり。熟成期間はSは2ヶ月、Yは20日位のものを使用した。成分分析は第1表に示した。

第1表 供試みそ成分表

種別	水分	P.H	全窒素	ホルモール 窒素	食塩	直糖	酸 度	
							I	II
S	51.2	5.52	1.65	0.22	10.05	17.00	6.15	7.87
Y	48.7	5.35	1.77	0.30	10.94	16.54	6.55	7.47

分析法は基準みそ分析法によつた

B 方 法

上記味噌にリヒトワキコンを第2表の通り添加し攪拌して後無加熱ミンチで漉してポリエチレン袋(18×22cm0.04mm)に約1kg宛入れ完全にシールした、比較としてDHA-S、PPG、DHA-SとPPGを混用したもの及び対照無添加のものを全様全時に26~27°C恒温器中に保存して湧きの状態を観察した試験結果を第3表に示した。尚添加処理した味噌の一部をシャーレに平に採り、味噌表面の黴の発生状況を観察した結果は第4表に示した。

第 2 表 試 験 種 別 表

No.	保 存 剤	添 加 量		備 考
		(%)	みそ 1Kg当 (g)	
1	標準区			
2	DHA-S	0.025	0.25	DHA-Sを水20倍に溶解
3	PPG	1.0	10	
4	DHA-S+PPG	0.025+1	0.25+10	DHA-SをPPGに溶解
5	ワキコン	0.25	2.5	
6	〃	0.5	5.0	
7	〃	1.0	10	

(注) DHA-S は合糖KK製。

PPG は昭和電工KK製を使用した。

第 3 表 防 溢 試 験 結 果

(37年 4月12日開始)

試料	日 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	21	25	34
		-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
S	1	-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	2	-	-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	3	-	-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	4	-	-	-	-	-	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	5	-	-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	6	-	-	-	-	-	±	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	7	-	-	-	-	-	-	-	-	±	±	+	+	+	+	+	#	#	#
Y	1	-	-	+	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	2	-	-	-	-	-	-	±	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	3	-	-	±	+	+	+	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
	4	-	-	-	-	-	-	±	±	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	5	-	-	-	±	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	6	-	-	-	-	-	±	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	7	-	-	-	-	-	-	-	±	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

(注) - 防溢完全

± 稍々酸酵する。

+ 膨張を認める。

#+ 明らかに膨張する。 # 風センの様に膨張する。

第4表 防黴試験結果

試料	No.	日						
		5	10	15	20	25	30	35
S	1	±	±	±	±	±	±	±
	2	-	±	±	±	±	±	±
	3	-	±	±	±	±	±	±
	4	-	±	±	±	+	+	+
	5	-	±	+	+	+	+	+
	6	-	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	-	-	-	-
Y	1	-	-	-	-	-	±	±
	2	-	-	-	-	-	±	±
	3	-	-	-	-	-	±	±
	4	-	-	-	-	-	±	±
	5	-	-	-	-	+	+	+
	6	-	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	-	-	-	-

(注) ± 表面にツヤなし

+ カビの発生を見る

++ カビの繁殖著しい

C 結果

(1) PPG 1% 並にワキコン 1% 添加のものは何れも若干軟くなる傾向があり、仕込み時の水分の調節をはかり硬目に仕込む必要がある。

(2) 試料味噌 S に対し DHA-S 0.025%, PPG 1% 添加のものは対照に比べて僅かに 1~2 日湧きが後れるがそれらの混用のものは更に 1~2 日後れワキコン 0.5% と全程度の効果であった。

(3) 味噌 Y に対しては PPG 1% のものは殆んど効果がなくこれに対し DHA-S 添加のもの並に混用のものは 4~5 日程度湧きが後れ又ワキコン 0.5% 添加も大略全程度の効果を示した。

ワキコン 1% 添加はより防湧の効果はあるが対照より 6~7 日程度の後れであつて実用的に添加剤での防湧効果は不完全といえる。

(4) PPG, ワキコン添加のものは対照並に DHA-S 添加のものに比べて色沢が秀れ特にワキコンを 0.5% 以上のものは黄色を帯びて照りがあつた。

(5) カビ発生は試料味噌の種類により差はあるが何れもワキコン 0.5% 以上添加のものは防黴効果は認められる。

(6) PH の変化

以上の防湧、防黴試験に供した味噌の 35 日目の PH の変化は第 5 表の通りである。

第 5 表 貯蔵味噌の PH の変化

	No.	1	2	3	4	5	6	7
S	ポリ袋入	5.18	5.23	5.20	5.17	5.08	5.00	4.96
	シャーレ入	5.18	5.13	5.10	5.10	5.05	5.16	5.20
Y	ポリ袋入	5.10	5.18	5.15	5.15	5.00	4.90	4.80
	シャーレ入	4.95	5.12	5.00	5.10	5.11	5.10	5.06

II 加熱を併用した場合

A 試 料

鹿児島市 枝元醸造(株)製 淡色麦味噌を用いた。

B 方 法

上記味噌を加熱ミンチで品温 55°C に加熱しながら漉したものをそのままと加熱ミンチにかける前にワキコン 0.5% 添加後全上処理したものを夫々ポリエチレン袋詰として 37 年 6 月 29 日より室内常温に保存したものについて湧きの状態を観察し

た結果は第6表の如くである。

第6表 防湧試験結果

ノ日	5	10	15	16	19	22	30	35
対照	—	—	—	±	+	卅	卅	卅
添加区	—	—	—	—	±	±	±	+

加熱処理丈の対照は16~17日間は安全であつたが加熱のワキコン併用のものは防湧効果が増加し30日間は袋入として市販に支障ない程度の状態を保持出来た。

(要約)

味噌の防湧防黴剤としてワキコンを DHA-S PPG 並にその混用のものと比較検討した。

無加熱添加の場合味噌により多少の差はあつたが防湧効果はPPG1% < DHA-S 0.025% < DHA-S 0.025 + PPG 1% < ワキコン 0.5% < ワキコン 1% の順であり、ワキコン所定量で6日、倍量添加で8~9日間は安全であるが、何れも無加熱で薬剤の添加丈では防湧は不完全であつて加熱と併用した場合明らかに防湧効果は増大し加熱ミンチで55°C 品温の場合に対照のもの16~17日に対しワキコンと併用のものは30日間は安全であり可成り満足な結果を得た。

味噌表面の黴の防止にワキコン 0.5% 以上のものは著しい効果を認め、尚色調に於ても対照に比べて良好であつた。

第1表 供試味噌成分表

水 分	P H	全窒素	ホルモール 窒 素	食 塩	直 糖	全 糖	酸 度	
							I	II
51.0	5.32	1.63	0.303	10.89	17.6	23.0	6.93	7.03

B 方法

上記味噌 1.5kg に対し 第2表の割合でワキコン、ワキコン SA、DHA-S、並にワキコン SA とワキコン混用のものを添加し、攪拌して後無加熱ミンチで漉して前報全様にポリエチレン袋に詰め、30°C 恒温器中に保存して湧きの状態を観た結果は第3表に示した。尚添加処理した一部をシ

なお PPG やワキコンを添加した味噌は、何れも若干軟くなる傾向があるので仕込味噌の水分を調節し硬目に仕込むことが望ましい。

文 献

- (1) 大竹、毛利、味噌技術 91 1,961
- (2) 緒方 酿協 57.7.78 1,962
- (3) 岸等 味噌技術 93 1,961
- (4) 徳永化学研究製品

4.2.8 [題目] 味噌の防湧防黴試験（第2報）

ワキコン「SA」の効果について

東 邦雄 原沢幸吉

(目的)

前報においてリヒトワキコンの味噌に対する防湧防黴効果につき報告したが、今回は全様の目的でワキコン「SA」についての依頼があり、麦味噌に対する防湧防黴効果を DHA-S、ワキコン並に併用のものにつき比較試験を行つたので報告する。

(概要)

A 試 料

用いた試料は本場製、仕込配合割合は、裸麦 100kg、丸大豆 40kg、脱脂大豆 30kg、食塩 38kg、仕込月日は昭和38年2月19日、12日間約28°C に温醸したものを使用した。成分々析の結果は第1表に示す通りである。

ヤーレに採り、表面の黴発生状況を観た結果は第4表に示す通りである。